

【 5 みやま市 Miyama City】



みやま市・柳川市の間を流れる矢部川から

みやま市では、市の南西側に広がる有明海の干潟をはじめ、市の西北側を流れる矢部川、東側にそびえる御牧山や鷹取山など、市内各地から筑後平野越しに“北東面の雲仙岳”が眺望できます。矢部川をはさんで柳川市へとかかる矢部川大橋は、コンクリート製斜張橋（斜めに張ったワイヤーで吊られている橋↓）としては全国一の規模（橋脚間長：261m）を誇りますが、この橋の上からは矢部川越しに雲仙岳が眺められます。市内の小中学校の校歌にも雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。

本市の名称は、旧三池郡と旧山門（やまと）郡の頭文字をとった“三山”の読み仮名に由来しますが、邪馬台国の一候補地とされ、古代のロマンをかきたてる遺跡が多く存在します。市の北部には女山（ぞやま）という標高 195m の丘があり、神籠石（こうごいし）という約 2.9 km に及ぶ列石（国指定史跡）が配置されていますが、元は女王山とも呼ばれ、一説には邪馬台国の卑弥呼の居城であったとの説もあります。女山史跡森林公園の展望台からは、“まぼろしの邪馬台国（書籍・映画）”の舞台となった雲仙岳（島原半島）が眺望できるほか、卑弥呼の墓との説がある権現塚古墳も眺められます。

女山の南西にそびえる清水山には、三重塔を有する平安初期創建の清水寺（天台宗の開祖・最澄が創建）や 2000 本近い桜があり、桜越しに矢部川流れる筑後平野と雲仙岳のパノラマを楽しむことができます。

本市最高峰の御牧山は、江戸時代に柳河藩の牧場とされ、山頂やキャンプ場からは雲仙岳が眺められますが、当時は島原藩が“島原馬”の生産に力を入れていた時代で、雲仙岳一帯も馬の一大放牧地となっていました。空気が澄んだ日には御牧山の山頂から阿蘇山も眺望でき、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形（※阿蘇地域のページ参照）を視覚的にイメージすることが可能です。

市内を流れる矢部川水系の水路の水は、やがて有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を矢部川や筑後川が日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、みやま市内を旅してみませんか？

●みやま市の観光情報はこちら ⇒ みやま市観光協会 <http://www.miyama-kk.com/>



矢部川大橋上流（柳川市内）から